

レアメタルの未来 ～ MMTA 会議に参加して～

文責：レアメタルグループリーダー 吉永 宏明



MMTA 会議風景 (1)



MMTA 会議風景 (2)



トレーダー事務所にて

2007年4月26日と27日の二日間エストニアのタリンでマイナーメタル国際会議が開かれた。MMTAは欧州ベースの最も古いレアメタル会議である。今回初めて参加したが参加者は生産者が3割、トレーダーが7割のどちらかと言えば流通中心の会議である。今年は三年間続くレアメタル市況の好調さを反映してトレーダー（流通業者）中心に200名以上が参加する大変活気のある会議であった。セッションは2日にわたりパネルディスカッションを含む5つのセッションで構成されていた。

第一セッションでは「レアメタル市場への挑戦」のテーマで「エストニアのレアメタル産業」「航空機市場のレアメタルのサプライチェーン」、第二セッションでは「レアメタル産業の未来の構図」のテーマで「レニウム、ジルコニア、ハフニウム」と「最近の中国希土類市場の影響」と「チタン産業の発展」、さらにパネルディスカッションを挟んで第三セッションでは「環境・技術について」のテーマで「REACHの動向」「化学品の統一表示」「EU市場のケミカルビジネス」が行われた。翌日の第四セッションでは「電子産業におけるマイナーメタル需要の成長」のテーマで「ゲルマニウムと太陽発電」「インジウムとガリウムの新規用途の開発」「レアメタルのリサイクル」そして第五セッションでは「新規供給ソースと付加価値」のテーマで「ビスマスの新規用途」「アンチモンの付加価値」とパネルディスカッションが行われて閉会となった。

場外でも十数カ国から集まったメタルトレーダー達が活発な商談会を行った。トレーダーたちは三年も続いている好景気がBRIC'Sなどの需要増加と資源不足によるものだと認識で現在の高値は安定的に持続するばかりか更なる先高を予測している。90年代は旧ソ連の崩壊による供給過剰の為、2003年までのレアメタル市況は低迷を繰り返してきた。その結果、10年で欧米のメタルトレーダーは10分の1に減ってしまった。

しかし、この三年間でメタルトレーダーは完全に息を吹き返した。ロンドンやNYKベースのトレーダーが史上空前の利益を上げているのは（無論、鉱山や精錬業者はそれ以上

だが)ここ数年のスペキュレーションがほぼ全て成功したからである。その結果、今年に入ってから更に投機行為が増加していると思われる。今回のMMTAでは何社かのメーカー筋がメタルトレーダー不要論を唱えている。特にマイナーメタル(副産金属)の乱高下が激しくそれを演出しているのは過剰な投機行為だと思われるからだ。日本はレアメタルの大きな需要国であるが、欧米のトレーダーの様なスペキュレーションはシステム上、経営文化上、敬遠されることが多い。しかしそのような分野がマイナーメタル業界に存在する以上、積極的に知識を勉強して日本式に吸収してはどうだろうか。

今回はMMTAに先立ちロンドンのトレーダーやLME、LMB、ロイターを訪問し意見交換を行った。LMEリングでは銅、ニッケルの歴史的な高値の現場を体現しLMBではタングステン市況の人為的な高騰について意見交換を行った。さらにベルギーのトレーダーやメーカーも訪問しレアメタルの流通面(アフリカ資源の動向など)の意見交換を行った。目的は現在の高値市場が本当に続くのか、世界の安定供給と資源の枯渇はどうなるのかを意見交換するためである。欧米トレーダーの視点で話を聞くと、最近のアフリカ鉱物資源事情は中国の影響を受けて急速に変化をしているらしい。中国は今後必要になる鉱物資源を積極的に開発、獲得に乗り出しており、またアフリカの国の中には、鉱物資源の採掘や輸出に対して国がライセンス制度などを通して管理をする方向にあると言う。しかし、中国は設備関係や人的資源なども含めて中国人が大勢押しにかけており、現地との間で利害のトラブルも発生しているとの情報もあるらしい。今回の欧州出張中に、テレビでエチオピアの中国系石油採掘場に地元武装勢力が襲撃を行って多数の犠牲者がでたことは、衝撃的な報道であった。



L B (London Metal Bulletin)にて

現状の環境を分析するとMMTA会議における結論は以下の通りである。

- 1) 世界経済の発展は目覚しくデジタル革命のキーマテリアルであるレアメタル産業の需要は拡大傾向にある為さらに発展する。
- 2) 環境面における産業界への要求は益々厳しくなる為、技術的ブレークスルーや法制面による規制が不可欠になってくる。
- 3) 中国やロシアの需給バランスがレアメタル市場に多大な影響を与えるが各国の資源ナショナリズムへの傾倒は回避できない。特にBRIC'SやVISTAなど、これまでの経済途上国といわれる国々の目覚ましい発展と需要の加速により、この動きは強くなると予想される。
- 4) 長期的「レアメタルパニック」に対応する為に省資源、代替資源、リサイクルが重要であり資源国のみならず技術先進国の役割も益々重要になる。特に資源がなくハイテク産業に強い日本はリサイクル技術や代替資源開発が発展しており、この分野における期待は大きい。
- 5) トレーダーによる過剰な投機行為はマイナスに働く側面があり生産者と需要者とのサプライチェーンが合理的に構築される必要がある。